

## 第6回 加古川市上下水道事業運営審議会 会議録

■日 時 平成30年11月27日(火) 午後2時30分から午後3時30分

■場 所 中西条浄水場 管理棟 会議室

### ■出席者

#### ■委員(五十音順)

足立委員、田端委員、檀委員、原委員、樋口委員、松本委員、  
八代醒委員

#### ■事務局

池澤上下水道局長、岸本上下水道局次長、  
中務上下水道局参事(技術担当)、植田経営管理課長、  
井上配水課長、藤村施設課長、岡崎経営管理課副課長、  
吉田経営管理課管理係長、川上経営管理課経営係長、  
辰巳経営管理課経営担当係長、松村経営管理課管理係主査、  
石原経営管理課管理係書記、株式会社日水コン社員4名

### ■次 第

- 1 開会
- 2 事務局紹介
- 3 議事 「新水道ビジョン」および「新下水道ビジョン」の策定について
- 4 閉 会

### ■配付資料

- 1 次第
- 2 第6回加古川市上下水道事業運営審議会 資料
- 3 新水道ビジョン(案)および新下水道ビジョン(案)に関するパブリックコメントの実施について

■傍聴人の数 なし

### ■議事要旨

- 1 開会
- 2 事務局紹介

### 3 議事

会 長：本日の会議の傍聴希望される方はいらっしゃいますでしょうか。

事務局：傍聴者ございません。

会 長：傍聴者なしですね。では傍聴者なしということで議事を進めてまいります。本日の議事でございますが、新水道ビジョンと新下水道ビジョンの策定ということになります。先程も申しましたように、これまで水道・下水道のそれぞれの事業について現状と課題、将来の事業環境、そしてこれからの水道、それから下水道の事業ということ、さらにはそれに基づきまして、具体的施策につきましてご議論いただきました。特に事務局の方には様々な資料をご用意いただきまして、それを基にご議論いただいたというところでございます。今日はですね、先ほど事務局からもご説明ございましたように、今までの審議を基に作成いたしましたビジョン案について確認をさせていただくと共にですね、少しまだ未成熟の部分もございますので、そういったところについてはご意見を賜り確定させて、12月のパブリックコメントにかけてまいりたいというふうに思っております。それでは資料のほうの説明に入らせていただきたいというふうに思います。事務局の方からまずは水道ビジョンの素案につきましてご説明の方をお願いしたいと思います。

事務局：それでは、水道ビジョンについてご説明いたします。水道ビジョンは、10月2日の運営審議会におきまして、第3章の現状と課題と、第6章の具体的施策についてご説明いたしました。現状と課題については、現行の水道ビジョンの体系に沿って整理したものを提示しましたが、管路の耐震化に関する施策が重複するなど、現行ビジョンの体系が関連する項目がまとまっていないことから、わかりにくいとのご意見がありました。そこで、新しいビジョンの今後10年間に取り組む内容である第6章の具体的施策に沿って、第3章の現状と課題を整理しなおしています。なお、文章などは前回までの内容をもとに再構成しているため、大きく変更になった箇所はありませんが、修正した点を中心にご説明いたします。

資料1の13ページをご覧ください。まず、「安全で良質な水道水の供給」に関する現状と課題です。(1)安全・安心な水づくりでは、13ページから15ページまで水道水の安全に関する内容として、主に浄水処理や水質検査についてまとめております。続きまして、16ページから22ページまでは(2)水道水の品質の向上として、水道水の品質に関する内容として、主に消毒副生成物や異臭味への対策、直結直圧給水についてまとめております。続きまして、23ページをご覧ください。「危機に強く安定供給ができる水道の構築」に関する現状と課題です。(1)施設の更新・耐震化では、23ページから26ページまで浄水場、水源地及び配水池の更新・耐震化についてまとめております。次に、27ページ

から 29 ページまでは、基幹管路や配水支管の更新・耐震化についてまとめております。続きまして、30 ページから 33 ページまでは、各種マニュアルの策定や近隣市町との相互連絡管など、危機管理体制の構築についてまとめております。続きまして 35 ページをご覧ください。「信頼される健全な経営」に関する現状と課題です。前回の現状と課題では、主に経常収支比率などの指標をもとに分析を行っていましたが、下水道ビジョンに合わせて平成 29 年度決算の状況を 36・37 ページでまとめています。また、38 ページには平成 29 年度決算における貸借対照表の内容を、39 ページには企業債残高の推移を、それぞれまとめています。以上が現状と課題における主な修正点です。

続いて、第 6 章では、前回の審議会においていただいた意見をもとに第 6 章の具体的施策で主に修正した点についてご説明いたします。63 ページをご覧ください。今回策定するビジョンでは、目標ごとに指標を選定し、10 年後のその目標数値を定め、各種施策を実施していきます。前回の審議会において、各種指標を選定した理由を記載した方がいいのでは、というご意見をいただきました。そこで、指標の選定理由を記載する代わりに、指標の欄外に解説を加えています。また、前回の資料では指標の現状が平成 28 年度になっていましたが、全ての指標を平成 29 年度の数値に更新しています。次に 69 ページをご覧ください。ページの中段に施設の更新・耐震化の目標を記載しています。その中の浄水施設の主要構造物耐震化率ですが、平成 29 年度の数値では 100%となります。そのため、新たな別の指標を選定する予定にしています。次に 70 ページをご覧ください。③更新基準の見直しですが、前回の審議会時に表現を変更した方がいいのでは、というご意見をいただきましたので、今回修正をしています。次に 80 ページをご覧ください。アセットマネジメントに関するグラフですが、今後の老朽管更新に要する事業費を算出しましたので、下段のグラフをその内容を反映したものに差替えています。以上が第 6 章の具体的施策の主な修正点になります。

最後に第 7 章について、ご説明いたします。89 ページをご覧ください。第 7 章は、策定したビジョンの進捗管理に関する内容となっています。第 6 章では、目標ごとに指標と 10 年後の数値目標を掲げ、その目標を達成するために今後 10 年間で取り組むべき内容を記載しています。単に数値目標を設定するだけでなく、進捗管理を行い、ビジョンをより実行性のあるものにしたいと考えています。具体的には、平成 31 年度から P D C A サイクルを用いて、設定した数値目標の達成を目指します。P D C A サイクルとは、89 ページの注釈にも記載していますが、計画 ( P l a n ) ・実施 ( D o ) ・評価 ( C h e c k ) ・改善 ( A c t i o n ) の段階を繰り返すことで、業務を継続的に改善するものです。イメージ図を 90 ページに掲載していますので、ご覧ください。P D C A サイ

クルの流れにつきまして、それぞれの取り組みを上下水道局の実施する内容に沿って説明いたします。まず、毎年4月に当該年度の事業実施に関して経営方針を策定します。それがP l a nにあたります。次に、策定した経営方針に基づき、ビジョンに記載しています具体的な施策や事業を毎年度実施します。それがD oにあたります。そして、1年間の事業実施の結果を決算として議会に報告するとともに、上下水道事業運営審議会に報告し、外部の委員の方々に評価をしていただきます。それがC h e c kにあたります。最後に、決算の報告や運営審議会の評価の内容を、予算に反映させ改善を図ります。それがA c t i o nにあたります。このようにP l a nからA c t i o nまでのサイクルを毎年度実施することで、目標の達成に向けて業務を継続的に改善していきます。また、10年間のビジョンの中間年度となる2023年度には、社会情勢の変化も踏まえまして、第6章の具体的施策の内容について、見直しを検討いたします。なお、掲げている数値目標は変更せずに、具体的施策の内容について見直しが必要であるかどうかを検討します。以上が第7章の今後のビジョンの進捗管理に関する説明です。

会 長：はい、ありがとうございました。いまご説明ございました、まず修正点、これは各委員からご指摘いただきました点が修正されているのかなと思って見ていたのですが、まずその点について確認とご意見を賜りたいと思います。続きまして第7章、この部分はまだ審議未了でございますので熟してないところもございます。今の方針では、この審議会の役割が加わっておりますので、そういったことも含めてご意見賜ればと思います。どなたからでも結構でございますのでご意見を賜ればと思います。如何でございますでしょうか。

委 員：修正は宜しいかと思うのですが、第7章も合わせてということですか。

会 長：はい、結構でございます。

委 員：わたし先程ご説明いただいた第7章のP l a n - D o - C h e c k - A c t i o nの中身を説明いただいたのですが、中身はどんなことをするという、例えば図7-2なのですがね。これ通常P D C Aだけの図を書かれてもですね、やっぱり見る方はもう少し、今ご説明のあったようなことを関連付けられると非常に分かりやすいのではないかなというふうに思いましたですね。

会 長：中身的にはどうですか。

委 員：それは良いと思うのですよ。P D C Aの中身はご説明あったから私たちはいいのですが、これを見た場合に将来計画、その10年の計画の最後にですね、そういう説得力があるかというふうなところは何かあったら非常にいいかなというふうな気はしました。

会 長：ありがとうございました。

委 員：はい、以上です。

会 長：他、いかがでしょうか。何かお気づきのところ。実は私もこの図はよく見る図なので、この計画だけで、どの計画もだいたいこういう図を書かれているんですね。実際はどう担保しているのかというのはいつも課題になるところで、要はどうしても大学にいてもこのPDCAで回せというのですよ。で、できない。例えば僕らは授業で事業プランというシラバスを作るのですね。実際授業をやって、学生からチェックを受けてというふうに形はいつているのですが、実際にはできない。どうやってそれを担保にしていくのかと、実は自分達もいつも課題なのです。そのあたりこういう審議会などでこういう図がでたらどうやって担保していくのかというのはよく言われること。ただ、先程おっしゃっていただいたように、内容的には問題ないのでこれがしっかり分かるようにして下さいという事だと思いますので、特に文章には書いておられるのですけれども図にもそれが分かるようなものを付け加えていただければと思います。ありがとうございます。他いかがでしょうか、何か。第7章に含めても結構です、先程第6章の修正点、私は修正いただいたので非常に分かりやすいというか、関連付けていただいているので見やすくなったかなと感想をもっていたのですが、何かございますでしょうか。他でお気づきでも結構なのですが。私が一番大事なのは先程の持続可能性のところ、第6章の80ページ。この図がどこまで説得力を持つのかというのがすごく気になっているところで、上と下と見比べていただいて平準化するとこういう形になるのだよと。確かにこれを見ると、ある程度抑えられて平準化するなど非常によく分かるのですけれども、この辺りがどこまで、2070年まで書いておられますが、どこまで説得力を持っていけるのかなということだけがちょっと気にはなっています。これはある意味においては、パブリックコメントの中でどんな指摘があるのかなと、少し楽しみというのは申し訳ないですけれども、どういうふうな指摘があるのかなというのは気にはなっているところです。私はこの図は非常に分かりやすくしてくれたなと思います。良い図にしてくれたなと思います。内容としてはですね。何かご質問他にありませんでしょうか。

委 員：修正点については本当に反映していただきまして、ありがとうございます。今までなかった議論の対象として第7章ビジョンの実現に向けてということなのですが、その際にPlanとDoというのわりと皆さん行政の方はいいこととしてらっしゃると思うのです。問題はCheckとActionなのです。そういった場合に、こちらの方の第7章のビジョンの実現に向けてのPDCAサイクルのイメージの直前のビジョンの実現に向けたスケジュールですね。スケジュールの中に2019年、2020年、2021年、2022年これは事業の実施をしますと、その翌年の2023年中間見直し。この中間見直しというのは、要は現状の平成29年度の値に対して目標値、平成40年度に何パーセント、

最低でもこのパーセントはクリアしたいのです。だから中間見直しというのは、そこを基準に見直ししたいのか、何をもって中間見直しをしたいのか、この定義が分からないなと思ったのです。実際に、要はこの4年間でやった中間地点のある程度のゴールです。それというのは結局のところ最終的には2028年の最終評価、いわゆるこちらでいいます目標値そのものを実現しなくてはならないその為の中間地点であるならば、ある程度の見通してあると思うのです。ここまではクリアしなくちゃならないのではないかと、最悪のシナリオで。ただ一番良いのは本当に目標値に近ければ近いほど良いのですけれども、ただ4年間やってさすがにこれを下回ったならば、もう少し急ピッチで若しくは抜本的に見直しをしなければいけないとか、見直しの仕方です。単なる確認程度でいいのです。というのは、目標値80%ぐらいだったならばそうしましょうと、50%だったならば、さすがにそれには何らかの改善の余地が必要なので修正案を作りましょう。もし30%だったらこれはもうさすがに間に合わないじゃないか、そしたら今までこの4年間やってきた内容というのは抜本的には見直した方が良くないかとか、そういったようないわゆる2023年ここが一つ目安にして第7章というのを少し肉付けできるのではないかなと思うのです。その上で、2024年、2025年、2026年、2027年という開始をすると思うのですけれども、この時に2027年をそのまま機械的にやっていいのかという話もあると思うのです。中長期計画の中で直前の、前年の1年前というのは一つこの1年間でどれだけ後目標値に近づけばいいのかという、そういったような目安にもなるのでそこは節目にする事がいくつかあると思うのです。ここに関しましては、前期の2019年～2020年を繰り返す形で表記されておりますけれども、果たしてそれが良いのかどうか。もしよしとするのであれば目標値ある程度実現可能性は高いから淡々とやっていけるのですというそういった見通しがあればいいと思うのですけれども、もしそうでなかった場合にやっぱりこの2027年度は場合によっては密に議論する期間として見直す。ただそれについては、中間見直しからの3年間、2024年～2026年の間で判断するとか、そういったことのワンステップ、ツーステップ、スリーステップで最終的に目標値に近づきますという形のそういうシナリオも第7章にあってもいいかなと思います。それぐらいちょっと第7章がメにしてこのページ数で終えていいのかどうかは不安だなと思いました。

会 長：ありがとうございます。2つに分けて2023年の中間見通しの時の、いわゆる考え方ですね。比例的にこうなっていくのであれば、それこそ平成40年と平成29年と比べて真ん中ぐらいまでいってればOKかなという話なのです。たぶんそうじゃないのもあるだろうと。ドーンといくやつもあればドーンとこういくやつもあるでしょうと。そういったものも含めて2023年の中間見直し

の基準というか、見通しといたしますか。ここでは何も書かれていないのだけでも、どうされますかということと、2点目はそれを踏まえての事になるとは思いますけれども、後半の4年間の取扱い。これが前半と同じような書き方でいいのかということですね。先程ご説明の中でありましたように、この最終の目的は変えないのだということも明言されている訳ですから、そうすると中間見直しの中で本来ここまで達して欲しかったのにこれしか達していなかった。その時後半部分とどのようにブーストをかけるのかというのが当然出てくるだろうという、先程のご指摘ではないかと思うのですが、これについていかがでございましょうか、何か。おっしゃたようにP D C Aなかなか難しいところは1点。それから10年間の長期的な財政見通しが立たない中で、中々これを特に明確にできないところはあるのです、だからこそ平準化して財政的にはなるべく負担を掛けないようにはなっているのですけれども、とはいえ2023年度の見通しの考え方といたしますか、それはこのP D C Aの中へ入れてはいかがかなというのは非常に納得のできるご指摘かなとは思いますが、いかがでございましょう。

事務局：P D C Aサイクルの中で事業をどれだけ進んでいるかというところで言いますとですね、上下水道局では約10年間の期間を目標にですね、毎年、中期事業計画という計画を立ててですね、毎年それを見直していくという形を取っています。そうなりますとだいたい10年先にどのような状況になっているのかというところはですね、毎年担当課で評価しているというふうな形になっておりますので、中間時点になる前に、だいたいどのような状況に至るのかというのは中期事業計画をある程度、毎年見直す中で評価していているのではないかなというふうに我々は考えているところです。ただ中期事業計画を実施する中でもですね、色んな外的な要因もございまして事業の進捗が上手くいかないというふうなこともあると思いますので、そういったところで中間の時点ですと、これはやっぱり抜本的にやり方を見直す必要があるのではないかなというふうなことが生じてくるということも考えられますので、2023年の段階ですと、どのような手法ですれば目標が達成できるのか、というところはやはりその2023年の中間の時点で、もう一度新たに考え直す。毎年のローリングも含めてですね、新たに2023年で見直すというふうな形が取れるのではないかなというふうに、今の事業のやり方を元に、出来るのではないかなというふうに考えております。2027年にですね、実際にその2028年に最終評価をするに当たってどのような状態にもっていけるのかということも、もう一度その時点というふうなお話しもございましたけれども、先程申し上げたように、中期事業計画の中では毎年10年間、事業計画をローリングして見直しをかけていくということをやっておりますので、それからすると特に前年度で新たにもう一

度 2027 年に評価をするということではなくてですね、毎年毎年このようなやり方でやっていって本当にその目標が達成できるのかというところを P D C A サイクル回す中で、評価していくというふうな形を取って、実際に中間の 2023 年でやはり大きく見直す必要があるのではないかなという部分については、2023 年にビジョンの中身を見直すという形を取れるのではないかなと考えております。

委員：たぶんそれ、おっしゃる内容というのは文章でいきますと、「次年度以降は、評価結果を踏まえ、中期事業計画や予算編成事務を通して、事業に反映させます」と、その一文の一つそれ全てかかっていると思うのですけれども、その際に今おっしゃったように、毎年毎年、中期事業計画でやって、尚且つそれを結果を見て予算編成に反映させますというものであるならば、本当に毎年の一つと、その中に小刻みな評価が入ってくるのだと思うので、そういった文章を付けて書いていいかも知れませんね。言い換えるならば 2018 年以降、少なくとも隔年につきましては、2019 年、2020 年その隔年の評価指標をそこに対する達成率が満たせてあるか否か、満たせてあるならばそれを踏まえて予算編成にさしていくという形ですよね。その中でも 5 ヶ年中期に関しましては、その中でもさらにその乖離の幅ですよね。乖離の幅に対してはより計画に反映させるのか、それともそうではないのかという、いわゆる最後の文章です。社会情勢の変化を考慮してというのが中期計画の見直し、今までの計画は一応やってきたけれども、ここで一旦計画自体を文章・文言とかも修正を図るという内容になると思いますので、そのあたりもう少し肉付けして、そして最後、さらに最終年度を残りの後期についてはどうするのか、もう少し書き加えていけばおっしゃることはよく分かると思います。

会長：たぶん薦めていただいた内容をご理解いただいたと思うのですけれども、それをどう表現するかというところで、いまこう書いているのは、委員がおっしゃったように網羅しているのです。ただ細かい説明が要ると、これでは分からないという。おそらく僕もこれを見た時に先生と同じことのご説明を聞いたのです。最初いった時に。同じことを聞いて同じような答えだったので、確かにそうなのだけれども、これで十分網羅されているのです。網羅されているのだけれども、ウーンというところで、でも網羅されているよねというところで終わってしまったので、たぶん同じような感想をもたれたのだと思いますので、何か。

事務局：2023 年時点は中間的なところ、その目標値でいけばそれで進んだらこの、例えば平成 40 年の目標に達するという中間値を入れていかないと、ちょっとここにきて見直しといっても、何をどう見直すのか、もう 5 年済んでしまっているからね。そこで例えば達成度 10%程度であれば、そこから加速度的にしていかなければいけないから、見直すのであれば中間数値というのは入れていっ

た方がより分かりやすい気もするのですね。

会 長：例えば今の公共施設の見直しされていると思うのですが、あれも長期計画と中間見直しで、比例的に減るのではないのだ、やっぱりどうしたってこういう形で減るわけ、人口減と併せていくわけですから、そこらへんは比例的に減るわけではない、あるいは比例的に増えるわけではないと思いますので、そこらへんをどう考えられるのかというのが、個別の指標も違うので、パブコメ前の数週間で決められるかどうかそこはちょっと疑問なのですけれども。でもやっぱりおっしゃっていただいたような委員の意図はおっしゃっていた意図だと思いますので、ご検討いただけないかなと思います。

事務局：91 ページに目標の一覧を掲げさせていただいておりますけれども、全ての項目が、例えば比例的に延びていくというのではなくて、ある一定レベルをキープするというふうな目標数値もございますので、そうなってくると何をもって中間の数値にするのかというのはなかなか難しいというところもございますが、ちょっとその件に関しては検討させていただきたいと思います。

会 長：ご意図はちゃんと伝わっていると思います。他いかがでしょうか、何かご意見はございますでしょうか。よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。非常に、私もこの第7章は同じように悩んだところもございまして、そこらへんも含めて皆さんご意見も賜ったかと思えます。そうしましたら今ご意見をいただいたところを含めまして、再度修正をお願いしたいと思えます。ただ時期が、パブコメまでの時間があまりないのですよね。

事務局：そうですね。

会 長：ということもありますので、もう1回審議会を開くというのは難しいと思いますので、大変申し訳ないですけれども、私と事務局の方で修正させていただくということで宜しいでしょうか。先程のご意見を踏まえた上で修正させていただきます。ありがとうございます。では事務局の方ではそのように進めていただきたいと思います。では続きまして資料2を開けていただきまして、下水のビジョンの方に進めてまいりたいと思えます。これも先程の水道ビジョンと同じように最後のPDCAが課題になると思うのですけれども、まずは資料の説明について事務局の方からご説明お願いいたします。

事務局：それでは下水道ビジョンについてご説明いたします。資料2をご覧ください。下水道ビジョンは10月22日の運営審議会で第6章の具体的施策についてご説明いたしました。本日は審議会後に修正を加えた点を中心に説明いたします。また、水道ビジョンと同様に、第7章の今後のビジョンの進捗管理についてご説明いたします。

資料2の72ページをご覧ください。下段のグラフは管渠の健全度を表していますが、前回の審議会の資料では、管渠の更新を全くしなかった場合のグラフ

を掲載していました。上段のグラフは、管渠を標準耐用年数で更新した場合の費用をグラフにしており、それぞれのグラフで齟齬が生じていましたので、資産の健全度を表すグラフを標準耐用年数で更新した場合のものに修正しております。また、見やすいように見開きにレイアウトを変更しています。続きまして、第7章の策定したビジョンの進捗管理に関する内容についてご説明いたします。水道ビジョンでもご説明いたしましたが、下水道ビジョンについても実行性を高めるため、PDCAサイクルを用いて進捗管理を行います。なお、PDCAの流れにつきましては、水道ビジョンと同様の内容のため、割愛いたします。以上が下水道ビジョンに関する説明です。

会長：以上でございますが、何かご説明の中で。まああの、第7章は同様なご指摘だと思いますので、もしそれ以外のところでお気づきの点があればご指摘いただきたいと思います。また今修正いただいたところで図の部分、特に図の変更としましては72、73、これ非常に分かりやすい図にさせていただきました。特に72 ページは耐用年数の更新した金額が大きくなると非常に青い部分が増えるというように、上と下が対照的で経緯がよく分かるので、この経費の使い方と結果というのは非常に分かりやすくなったかなと。しかもそれを左右対称にさせていただきましたので非常に分かりやすくなりました。前のところだとページが飛んでいましたので捲らなければいけないのだけれども、今回は対称とさせていただいたのと青い面積が、ちょうどこの予算を使うとちゃんと青い広がりというのがよく分かる。それから赤い線が抜けるので、安心の材料になるのかなというふうに思いました。すいません、ちょっと余談でございました。何かお気づきのところがありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。これ赤が消えちゃったけど危険度Ⅰは入れておかないといけないのですよね、この図は。前の分はちょっと赤い線が見えてくるので、全く実施しないので出てくるのですけれども。今度の場合は、危険度Ⅰが出る前に修正するわけだから当然危険度Ⅰは出てこない。だけど危険度Ⅰは入れておいた方がいい。危険度Ⅰが出てこないというのも大事なのですね。

事務局：そうですね。

会長：何かご質問とかご意見がございますでしょうか。特にご意見、修正点に対するご意見、或いはご質問、或いは他のところでも結構です。お気づきのところどころいったところがこうだったのじゃないのと、PDCAについては先程からご指摘あったところは反映するというので進めさせていただきますが、他にご質問とかご意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、折角のこれ最後の機会でもございますし、これからパブコメを求めるわけですけれども、皆様から一つずつ、ご意見とか、全体を通してですね、或いは今日の見学のご感想でも結構なのですからいただけますでしょうか。

- 委員：今日見学させていただいて、私初めてだったのですが、大変参考になりました。しっかりとした対応をしていただいているなというのと、会長おっしゃったように余裕があるという、いろんな意味で。リスクのことを考えて二重三重のセーフティがかけられているなということを感じました。非常に安心をさせていただいた次第なのです。
- 委員：私も同じで、今日の見学初めてでございましたのですけれども、非常に参考になりましたし、ある意味、驚きというかこれだけ立派にしてもらっているのだというのがよく分かりました。ついては先程、先週 23 日に市民の見学会がございましたけれども、26 万人皆さんにというのはもちろん不可能なのでしょうけれども、なんとか PR、見学の PR をもっとされて多くの市民の方々に本当に加古川市で供給している水というのが良いのですよ、美味しいのですよと。これだけ一生懸命やっているのですよというのを PR していただけたら良いんじゃないかなというふうに今日改めて思いました。以上です。
- 委員：私も今日初めて見学させていただきましてビックリして、こんなにみんな大変にされているのだなと思って、もっと水を大事に使わないといけないなとつくづく思いました。もっと言えば家族の者にも見せてあげたいなと思いました。ありがとうございました。
- 委員：本当に皆さんもっと PR をとおっしゃっていただいているので、同じような内容になるのでちょっと大変恐縮なので、今回ですね、何回か回数を重ねながら議論させていただきます中で、当初と比べまして本当に資料一つとりましてもブラッシュアップされて具体的にどういったことが問題になっているのかということが赤裸々に出てきておりますし、実際にそれを如何にしてビジュアルに尚且つ文字数もかなり制限して簡潔に書いていただいていると思うのですね。それというのはたぶんメッセージ性が高くしようとしている思いというのは、みなさん住民の方に如何に理解していただくのか、それに尽きるところがあるのかなと思いました。そういっただけに、そういったことがまず念頭にありますだけに、今度は市議会ですね。この資料がここまで完成度がかなりアップしている状況であるならば、後はこの 10 年間のプラン。10 年間のプランを如何にして住民の皆様に理解していただく形でさらにアピールしていくのか、そういったような一つのツールを何処まで生かすのかという視点に変えていただいた方が良くないかなと思えるぐらい、内容が濃くなってきていると思います。この先も一層、良い成果、本当に 10 年後一つの成果に繋がるような資料の使い方をしていただけたらと思いました。
- 委員：私も皆さんと同じです。今日見学させていただいて、一番嬉しかったといえますのは、教育施設というか、大広間のところにああいうものをお作りになって、写真にもあるような若い子ども達にも分かりやすく説明している。これも継承

ということだろうと思います。それはなかなか素晴らしいなというふうに思いました。それと加古川市は余裕があるように思いました、他都市さんと比べると。やっぱり原水が違うという、割合が違うということがあるかも分かりませんが、でもやはり加古川市の職員の皆さん余裕があっているのではないかなというふうな感じをさせていただきました。以上でございます。

委員：私もこの近くに住んでいて、いつも堤防の上からとかこの前を通って見るのは見ているのですけれども、なかなか中のことは分からなくて、また新しい建物を建てるけど何に使うのだろうなという感じだったので、今日見学させていただいていろんな。我々に対して親切にさせていただける、水道を作っていただける有難く思います。検査も、51種類の検査もなかなか普通では出来ないことをここでやっていただいているので、安心して飲める水だなということだと思います。ありがとうございます。

会長：ありがとうございます。以上でだいたい皆さんのご意見を賜ったと思います。先程、下水道ビジョンについても今まで議論いただきまして、特に大きな修正がないということでございますけれども、もしかして後で気が付いてという時は事務局に言っていただいて、それらも含めまして修正につきましては、私と事務局の方にご一任をいただければと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。そうしましたら、以上をもちまして本日の議題については終らせていただきまして、議事録の公表でございますけれども、これにつきましても一任いただいて宜しいでしょうか。特によろしいですか。これもこの形で進めさせていただきます。最後になりますけれども、今後の運営審議会のスケジュールについて事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局：今後の流れにつきまして、まずパブリックコメントにつきましてご説明させていただきますので、お手元に資料を配布させていただいております。新水道ビジョン（案）及び新下水道ビジョン（案）に対するパブリックコメント実施ということでございます。実施期間につきましては、平成30年12月12日水曜日から1ヶ月、平成31年1月11日の金曜日まで行っております。閲覧場所については上下水道局、それから各市民センター、各公民館、各図書館等、合計27箇所、及び市のホームページ、上下水道局のホームページの方で閲覧できるようになっています。それから意見を提出できる方につきましては、加古川市に在住の方、在勤の方、または在学の方という方が対象ということになっております。スケジュール的には12月12日から先程も申し上げましたようにパブリックコメントを開始しまして、翌年1月11日までパブリックコメントを開催いたします。1月21日に市の常任委員会の方に結果を報告した後、2月の下旬に第7回の上下水道事業審議会を開催させていただきまして、その中でご報告及び最終の審議というふうなスケジュールになっております。

スケジュールについては簡単ですが以上となります。

会 長：今のご説明につきまして何かご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。ではそのようにさせていただきますので、また第7回がパブコメ後にありますので、皆さんにはよろしくお願ひしたいと思います。では以上、もしご質問ないということでありましたらこれで本日の議事全て終了とさせていただきます。皆様、本当に今日は審議にご協力いただきましてどうもありがとうございました。